Clinical outcomes of patients with G1/G2 neuroendocrine tumors arising from foregut or hindgut treated with somatostatin analogs: a retrospective study

メタデータ	言語: English
	出版者:
	公開日: 2021-03-20
	キーワード (Ja):
	キーワード (En):
	作成者: 伊田, 英恵
	メールアドレス:
	所属:
URL	https://jair.repo.nii.ac.jp/records/2002686

授与機関名　順天堂大学

学位記番号　甲第 2417 号

Clinical outcomes of patients with G1/G2 neuroendocrine tumors arising from foregut or hindgut treated with somatostatin analogs: a retrospective study

前腸および後腸原発神経内分泌腫瘍に対するソマトスタチンアナログの治療成績に関する後方視的検討

伊田 英恵（いだ　はなえ）

博士（医学）

論文内容の要旨
神経内分泌腫瘍（NET）は稀な腫瘍であり、ソマトスタチン類似体（SSA）は、機能性腫瘍による症状制御だけでなく、切除不能な NET の疾患制御にも使用されている。中腸 NET に対する SSA の有効性は、過去の研究によって検証されているが、前腸（foregut, F）および後腸（hindgut, H）における NET（F / H-NET）の SSA 治療に関するエビデンスは不十分である。本研究は後ろ向き研究であり、切除不能な F / H-NET に対する SSA の有効性を評価することを目的とした。 2011 年 2 月から 2017 年 8 月の間に、当院で SSA で治療された切除不能な F / H-NET の患者を後方視的にレビューした。有効性のパラメーターは、無増悪生存期間（PFS)、全生存期間、客観的奏効率（ORR)、および有害事象であった。切除不能な F / H-NET の 12 例がデータベースから抽出された。追跡期間の中央値は 25.9 か月で､PFS の中央値は 13.6 か月であった。2 年と 3 年の生存割合はそれぞれ 87.5％と 62.5％であった。 ORR は 8.3％で、disease control rate は 75％であった。重篤な有害事象は観察されなかった。サブグループ分析において、G1 / G2、NET の肝転移である肝腫瘍量は、PFS に影響しなかった。 F / H-NET に対する SSA の有効性と安全性は、PROMID 研究で見られたものと類似しているようであり、F / H-NET の治療との関連性が強調された。